

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したので送付します。

令和8年度病虫害発生予報第2号

令和8年4月28日
岡山県

予報概評

| 作物名 | 病虫害名 | 発生時期 | 発生量 | 作物名 | 病虫害名 | 発生時期 | 発生量 |
|------------|--------------------|------------|------------|-------------|---------------|--------------------------|------------|
| 水稲 | 苗立枯れ（もみ枯細菌病による苗腐敗） | — | やや多 | モモ | ナシヒメシンクイ | 早 | やや多 |
| | ヒメトビウンカ | — | やや少 | ブドウ | 灰色かび病 べと病 | やや早 やや早 | 並 並 |
| | 縞葉枯病 | — | やや少 | | | | |
| | ツマグロヨコバイ | — | 並 | キュウリ等 | 灰色かび病 | — | やや多 |
| | 萎縮病 | — | 並 | | | | |
| イネミズゾウムシ | やや早 | 並 | | | | | |
| 麦類 | アブラムシ類 | — | やや少 | イチゴ | うどんこ病 | — | 少 |
| | ヤノハモグリバエ | — | やや少 | タマネギ | べと病 | — | 少 |
| ジャガイモ | 疫病 | 並 | 並 | ナス等 | ミナミキイロアザミウマ | — | 並 |
| モモ | 灰星病 | — | やや少 | アブラナ科 野菜 | アブラムシ類 コナガ | 並 並 | 並 並 |
| | 黒星病 | やや早 | 並 | | | | |
| | せん孔細菌病 | — | やや少 | キク | アブラムシ類 | — | 並 |
| | 褐さび病 | やや早 | 並 | | | | |
| モモハモグリガ | — | 並 | | | | | |
| ウメシロカイガラムシ | — | 並 | | | | | |

ア. 被害はオオムギで多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作とするか、コムギに転換する。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. ジャガイモの生育は平年並で推移している。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

2. 果 樹

(モモ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月18日の巡回調査では、花腐れの発生ほ場率は14.3%で平年(21.8%)よりやや低かった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや早く推移している。

イ. 4月18日の巡回調査(越冬病斑調査)によると、発生量は平年並であった。

ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月18日の巡回調査(春型枝病斑調査)によると、発生ほ場率は0%で平年(13.6%)より低かった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(4) 褐さび病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや早く推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であり、伝染源の越冬量は平年並と考えられる。

(5) モモハモグリガ(第1世代成虫)

予報内容

発生量 並
予報の根拠

ア. 4月17日の巡回調査(南部)では、発生ほ場率は0%で平年(1.4%)並であった。

イ. 予察ほ場のフェロモントラップによると、4月1～4半旬までの誘殺数は0頭で、平年(0.0頭)並であった。

ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察ほ場における越冬成虫の生存率は92.0%で平年(88.9%)並であった。

イ. 4月18日の巡回調査(南部)では、発生ほ場率は21.4%で平年(21.8%)並であった。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 早

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月4日と推測され、平年(4月14日)より早かった。

イ. 4月1～4半旬の誘殺数は92頭で平年(36.7頭)よりやや多かった。

ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 やや早

発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育はやや早く推移している。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 やや早

発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育はやや早く推移している。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

3. 野菜

(キュウリ、ナス、トマト、イチゴ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月16、17日の巡回調査によると、発生ほ場率はイチゴで45.5%と平年(35.5%)よりやや高く、トマトで50.0%と平年(51.3%)並であった。また、キュウリとナスでは発生を認めず、平年(キュウリ0%、ナス4.0%：10年間で1年のみ発生)並であった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(イチゴ)

(1) うどんこ病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 4月16、17日の巡回調査によると、発生ほ場率は9.1%と平年(16.6%)より低かった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(タマネギ)

(1) べと病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 4月16日の巡回調査によると、発生ほ場率は7.7%と平年(47.3%)より低かった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(ナス、キュウリ)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月17、18日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は263頭で、平年(279.5頭)並であった。

イ. 4月17日の巡回調査によると、ダイコンでは平年同様発生を認めず、発生ほ場率は平年(6.0%)並であった。

ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(2) コナガ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～4半旬のフェロモントラップの誘殺数は、33頭で、平年（32.6頭）並であった。
- イ. 4月17日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、平年（発生ほ場率：0%）並であった。
- ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

4. 花 き

(キ ク)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は263頭で、平年（279.5頭）並であった。
- イ. 4月17日の巡回調査によると、発生を認めず、発生ほ場率は平年（11.5%）よりやや低かった。
- ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、 <https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

